

(第2号様式)

平成 28 年 4 月 6 日

神奈川県教育委員会教育長 殿

県立三ツ境養護学校長

平成 27 年 度 学 校 評 価 実 施 報 告 書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p>&lt;教育課程・学習指導 ・授業改善 (1) 児童生徒が自立と社会参加するための生きる力をはぐくむために教育課程の検討・改善を図る</p>	<p>(1)- 客観性に基づいた児童生徒の実態把握と共通理解をすすめる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アセスメントの研修および実施を計画的に取り組む</li> </ul> <p>・ 次年度の個別教育計画に反映できるようアセスメント結果を記述する方法を検討する</p> <p>(1)- 個別教育計画が実践できる教育課程を実現する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育課程の検討</li> </ul> <p>(1)- 人権教育の視点に立った、授業改善の取り組みを行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アセスメントの方法やその研修の内容、回数</li> </ul> <p>・ 個別教育計画に効果的に記述できたか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育課程の改善点</li> </ul>	<p>&lt;知的障害教育部門&gt; 石田・言語知的スケール 研修：4回 実施：46回(高B1年、分教室1年)</p> <p>&lt;肢体不自由教育部門&gt; MEPA - R 研修：2回 実施：11回(小1、小4、中1)</p> <p>&lt;共通&gt; 自立活動専任教諭によりNCプログラムおよびWISC- の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 石田・言語知的スケール、MEPA - R について、個別教育計画への反映や保護者への伝え方に関する教員研修を行い、年度末の個別面談にて保護者へアセスメントの結果について説明した。</li> <li>・ 教育課程の改善に向け、各学部ごとに、自立活動と教科等指導の実態について、検証した。教育課程の検討には至らなかった。</li> </ul>	<p>(課題)アセスメントと授業力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アセスメント実施回数の増加</li> <li>・ 定型の評価尺度を用いた評価を重ねることにより、行動観察等、インフォーマルなアセスメント技術を向上させる</li> </ul> <p>・ 個別教育計画作成、保護者へのフィードバックについても研修を行う。</p> <p>・ 個別教育計画の効果的な作成や授業への有効な反映を行う。</p> <p>(課題)教育課程編成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 肢体不自由教育部門では、自立活動中心の教育課程だけでなく、実態に合わせて、知的代替の教育課程について、実施に向けた検討を行う。</li> <li>・ 知的障害教育部門では、自立活動の教育課程編成上の位置づけを検討する。</li> </ul> <p>(課題)人権の視点での授業改善</p>	<p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校のアセスメントについて、社会性や適応性も含めた全体像が分かるようになると良い。成育歴や家族という基盤がどういう形で票に反映されるかも大切である。</li> <li>・ 個別教育計画が個人史として、将来にわたって受け継がれると良い。</li> </ul>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フォーマルなアセスメントの実施が組織的に定着した。</li> <li>・ アセスメント結果を個別教育計画への反映、また、授業実践に向け、計画的に効果的に行うためには改善が必要である。</li> </ul> <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業支援チームを組織し、アセスメントの評価を個別教育計画へ十分に反映させることや授業実践に生かしていく。</li> <li>・ フォーマルなアセスメント技術だけでなく、行動観察等、指導場面での実践的なアセスメントの技術もOJTを利用し向上させる。</li> <li>・ 相談担当、専門職、担任の役割分担を明確にし、より効果的な教育が行えるようにする。</li> <li>・ 教育課程を再検討し児童生徒の実態に応じ</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人権教育に関する研修会を実施する</li> <li>・ 人権研究を通して研究授業の指導案や授業研究会で本校においての人権に関する視点を明確にする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人権研修会の内容、実施回数</li> <li>・ 人権に関する視点の内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修会4回 「自尊感情を守り育てる」 「障害者の人権」障害者差別の経済学 「学校から地域生活へ」 「アサーティブなコミュニケーション」</li> <li>・ 職員への人権感覚アンケート H26年度2回 H27年度1回 実施 人権感覚の変容を確認することができた。</li> <li>・ 保護者アンケートの実施 学校の人権意識に対して保護者の意見を確認できた。</li> <li>・ 人権に関する視点を検討した。 自分が大切にされていると感じる 友だちを大切な存在として認める 「わかった」「できた」と思える授業をするための授業づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ わかりやすい授業づくりを進めるため、引き続き、学習内容や教示の方法、環境設定の改善を行う。</li> <li>・ 個別教育計画に合理的配慮の記述を行う。</li> </ul>		<p>たものに変更していく。</p>
<p>児童・生徒指導・支援 (2) 児童生徒一人ひとりのニーズに沿った支援に取り組む。</p>	<p>(2)- 人権教育研究で得た成果を児童生徒支援につなげていく</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員の人権研修や授業改善により適切で効果的な支援技術を身につける</li> </ul> <p>(2)- 外部機関や外部資源と校内資源とが繋がったケース会議の展開と児童生徒支援の実現を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校内相談カードの活用を推進し、外部機関や学部・学年と効果的に連携をとり、生徒支援を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適切で効果的な支援技術が身についたか</li> <li>・ 連携の内容、相談カードの活用回数、ケース会の回数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修での学びを活かし、指導案に人権の視点を取り入れた評価の観点を設定することができた。</li> <li>・ 日常的に情報交換を行い、児童生徒の変容の確認を行うことができた。</li> <li>・ 多様な研修会を実施し、アンケートにより学びや変化を確認できた。</li> <li>・ 学部研究授業及び公開授業研究会で協議が行なわれ、授業改善が図れた</li> </ul> <p>ケース会 : 121回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校内相談カードを十分に活用することはできなかった。</li> <li>・ 学部会等で職員により定期的な呼びかけを行った。多岐にわたり自立活動教諭および教育相談担当への支援要請を連携支援部相談担当に一本化することとし、システムの構築と整理を行うことができた。</li> <li>・ 毎月1回、支援自活合同会議を開催。養護教諭も参加し支援情報の共有体制をさらに拡大した。必要に応じ外部も含め諸機関で連携したケース会を実施できた。</li> </ul>	<p>(課題)継続した人権教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導案作成例の項目に設定し、日常的に児童生徒の変容の確認を行う。</li> <li>・ 教員間の相互点検を継続する。</li> <li>・ 研修会や不祥事防止会議等で人権をテーマにしたり、セルフチェック形式での教員の人権感覚を確認する。</li> </ul> <p>(課題)校内支援体制の再整備と充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校内相談カードを活用し、教育相談担当を窓口とする校内相談システムの定着に向け、年度当初に事例を交えた研修会を実施する。</li> <li>・ 相談に関する学部の窓口を班員の業務に位置づけ、主訴に即応するシステムにする。</li> <li>・ 支援自活合同会議等を活用し支援情報を共有、外部機関につなげ多面的な意見交換に基づいたケース会実施する。</li> </ul>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員間の情報共有はおおむねされているが、細かい指導が足りてない様子があり、その子にとって良い方法を先生方が統一できていないこともあった。</li> </ul> <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2年間の人権教育の成果は素晴らしいものだが、今後、県の教育に反映されるようにしてほしい。</li> </ul>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人権の視点を持ち児童生徒一人一人のニーズに合った支援が行えた。</li> <li>・ 児童生徒の行動にも変化が現れてきた。</li> <li>・ 授業改善のための相談について組織化でき、相談ケース数も増加した。</li> </ul> <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の社会適応技術を上げるための授業実践を行う。</li> <li>・ 授業支援チームとの連携を相談カードを使用するなど定型化し、より計画的な効率の良い支援を実施していく。</li> </ul>

<p>キャリア教育・進路指導</p> <p>(3) ライフステージに応じたキャリア教育の組織的、取組を推進する。</p>	<p>(3)- キャリア教育について研修に取り組み、全校でキャリア教育の実践を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者、教員向けの研修会等を通してキャリア教育の理解を推進する</li> </ul> <p>(3)- 就学前から卒業後まで一貫した指導体制の確立を図り、指導引継体制の確立と進路指導の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>就学前の所属機関との情報交換の場や内部での引継ぎを効果的に行うことで、一貫した指導をする</li> </ul> <p>(3)- 作業学習を充実させ、生徒が進んで作業に取り組めるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が進んで取り組めるように、指示の方法の工夫や環境調整を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修等の内容。キャリア教育の理解が進んだか</li> <li>効果的な情報交換ができたか</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>指示の方法の工夫や環境調整の内容、生徒の変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的にキャリア教育の研修を進めることはできなかった。</li> </ul> <p>&lt;指導の引き継ぎ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校内の学部間の引継ぎの時間の設定、出身校との情報交換会の開催により、児童生徒について共通理解を得ることができた。</li> <li>自活や支援、外部機関と連携しカンファレンスを必要に応じて設定し、課題解決を行いながら進路支援を行えた。</li> <li>関係機関の研修会や業務連絡会、その他、事業所の祭などの行事にこまめに参加し、情報収集をした。卒業生の情報も得ることができた。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>分教室の職業アドバイザーの助言により、生徒が分かりやすい道具の扱い方や、教員の指示の出し方等について、具体的な助言を受け、改善に取り組むことができた。</li> <li>作業班の各班とも、より自立的に活動することが可能になるように、生徒たちにとってわかりやすいマニュアルの整備や作業工程、作業環境の構造化に努めた。</li> </ul>	<p>(課題)キャリア教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程の検討を行うにあたり、卒業後の生活や進路により結びついた学習となるよう、校内実習等の学習内容の整理、検討を引き続き行う。</li> <li>保護者、教員ともにキャリア教育の考え方や実践について研修する機会をもつ。</li> </ul> <p>(課題)進路情報の共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導について組織的に対応できるよう担任の力をつけるため、主体的に学びあえるような仕組みを作る。</li> <li>進路研修会を定期的実施する。</li> <li>外部機関からの研修会等の案内を引き続き行うとともに教育と福祉の学習会などを、瀬谷区でも行い担任が参加しやすくする。</li> <li>よりわかりやすい進路の手引きを作成する。</li> </ul> <p>(課題)職業的キャリア教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の職業アドバイザーによる助言を、継続して効果的な指導をしていくために、系統化と文書化をする。</li> <li>自立と社会参加に向け、特に職業的キャリアの教育の改善を行うため、作業学習の種目や名称などの変更を検討する。</li> </ul>	<p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導について、卒業後のアフターフォローは、マンパワーが質的にも量的にも不足している。進路担当だけでなく、担任もアフターフォローにかかわる必要がある。</li> <li>キャリア教育に関して、保護者は親離れが得意ではない、徐々に離れていく過程を体験させてほしい。</li> </ul> <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導について、卒業後のアフターフォローは、マンパワーが質的にも量的にも不足している。進路担当だけでなく、担任もアフターフォローにかかわる必要がある。</li> <li>キャリア教育に関して、保護者は親離れが得意ではない、徐々に離れていく過程を体験させてほしい。</li> </ul>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前所属との児童生徒の引き継ぎを十分に行い、共通理解を行うことができた。</li> <li>進路担当と担任が十分に連携を取り、適切な進路指導に向けて、十分な成果が上がった。</li> </ul> <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導に関し支援担当と担任との役割を再検討し、担任の進路指導の実践力を高めていく。</li> <li>進路指導について担任等の理解が進むように研修等を行う。</li> <li>作業学習の指導内容を改善していくとともにを行う。</li> </ul>
<p>地域のセンター的機能</p>					<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>もう少し地域に発信してもよいと思う。たとえばHPを活用し学校のPRも必要なのではないかと感じる。</li> <li>いろいろな形で地域とのかかわりがあると思うが、保護者は知らない部分が多いと思う。</li> </ul>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校や中学校、卒業後の各機関との連携は十分に行えたが、その活動内容を発信することが不十分であった。</li> <li>児童生徒の学校間交流等を通しインクルーシブな教育の推進が行えた。合わせて、本</li> </ul>

<p>(4) 地域とのネットワークづくりを進めて相互の支援活動を活発にする。</p>	<p>(4)- 地域の小中高との相互の連携を深め、インクルーシブ教育システムの構築を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 居住地交流、学校間交流を通して障害者理解を進める</li> </ul> <p>・ 地域の小中高へのセンター的機能を発揮し、地域で暮らす障害者を支える</p> <p>(4)- 学校の授業や活動について保護者や地域に発信し、本校の取り組みについて知らせ理解を広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ HPを充実させ、児童生徒の日常的な活動や学校行事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 居住地交流、学校間交流の回数。内容</li> </ul> <p>・ 要請訪問相談や研修会の回数及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ HPの掲載内容、更新回数</li> </ul>	<p>&lt;居住地交流&gt; 小学部：12回 中学部：1回&lt;学校間交流&gt; わっしょい：3回 ビリーブ：5回 小学部：3回(二ツ橋小) 中学部：1回(東野中) 高校交流：6回(清流高校、二俣川看護福祉高校、瀬谷西高校)・「わっしょい」では、本校生徒のスタッフ参加希望者が増え相互理解に基づいた双方生徒による準備・運営ができた。・「ビリーブ」では活動に対し高校と合同で表彰を受けた。&lt;研修会・公開セミナー&gt;・「将来のために今できること。」を共通のテーマに設定し、進路専任、地域生活を支える外部講師により実施した。進路担当研修：2回 地域支援担当研修：2回 外部講師による研修：2回&lt;地域との連携&gt;・担当者である班員が夏季休業中についての要請一覧表の作成、掲示も行って参加を呼びかけるシステムが定着した。</p> <p>要請訪問相談の回数：50回 地域支援担当研修：7回 進路担当研修の回数：4回(療育センター、小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 画像を使い分かりやすくするなど、見やすい内容になるよう工夫した。</li> <li>・ また、管理職のページも新たに追加し、新たなコンテンツの開発の可能性を示した。</li> <li>・ 学校ホームページの更新は今年度56回(2/20まで)の更新を行った。</li> </ul>	<p>(課題)インクルーシブ教育の推進</p> <p>&lt;居住地交流・学校間交流&gt;・居住地交流の増加および出前授業等の検討を行う。・「わっしょい」以外の交流でも企画運営への生徒の積極的な参加を模索し可能な限り実現する。&lt;研修会・公開セミナー&gt;・引き続き卒業後の生活についてのテーマで研修会や公開セミナーを実施し、日常の学習活動に生かすための情報を発信する。・情報交換会を毎年実施することとし、学部から吸い上げたニーズをテーマにおいて情報交換と連携を図る。&lt;地域との連携&gt;・学校の取り組みを地域に発信し連携を深めるため教職員「人材バンク」を作り、学校全体でセンター的機能を充実させる。・余暇支援業務と相談関連業務を班員に明確に分担し、企画運営を班員が行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ インクルーシブ教育の推進のため、ケース相談にとどまらず、学校改善への協力を行う。</li> <li>・ 高校へのケース相談や進路支援を行う。</li> </ul> <p>(課題)情報発信力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ より魅力的なホームページにするため、ホームページの体裁や新規開発を含めコンテンツの整理や内容の充実をする。</li> <li>・ また、HP上にアクセス数のカウンターを搭載するなど客観的評価の指標とする。</li> </ul>	<p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相談担当、進路担当は地域と十分に連携し、情報収集に励んでいるが、校内の教員と温度差があるように感じている。その、温度差をなくしていくことが必要。</li> <li>・ 特別支援学校を知るために、地域ケアプラザの研修会にも講師として来てほしい。</li> </ul>	<p>校の生徒が積極的に企画に参加するなど、社会性を伸ばすことができた。</p> <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就学前の機関や高等学校との連携を深め、インクルーシブな教育を推進していく。</li> <li>・ 地域連携をより推進していくために、校内の人材育成をはかる。</li> <li>・ HPをより魅力的なものに改善し、情報発信力を高めていく。</li> </ul>
<p>学校運営・学校管理</p> <p>(5) 機能的な学校運営の推進に向けて、組織の充実を図る。</p>	<p>(5)- 安全で安心な学校を作るために、学校防災を強化し、特別避難所の取り組みを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者と協力した学校防災の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域や保護者と連携し組織的防災体制が整ったか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PTA防災準備委員会設置を行った。</li> <li>・ 災害や防犯に備えた対応訓練の実施を行った。</li> </ul> <p>防災訓練：2回 防犯訓練：1回</p>	<p>(課題)地域と連携した防災</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ PTA防災準備委員会の活動を行い、保護者と学校と協力して防災活動に取り組む。</li> </ul>	<p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災に関して高校生であれば、要援護者としてだけでなく、自分たちが助けるという視点が必要ではないかと思う。</li> <li>・ 安心・安全な学校という意味で、後者の保全は大切。県への要望</li> </ul>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次年度に向けてPTAと協力する組織を作ることができた。</li> <li>・ 防災に関して校内の取り組みは十分であったものの地域との連携は進めることができなかった。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別避難所としての受け入れ体制を整備する</li> </ul> <p>(5)- 事故や不祥事が起きない学校をつくるため、教職員向けの研修を多様に行い、意見交換の場を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事故や不祥事が起きないように研修会や不祥事防止会議等に取り組むことで職員の意識向上をはかる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別避難所としての受け入れ態勢が整備できたか</li> </ul> <p>研修会、会議の内容及び回数</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害や防犯に備えた対応訓練の実施、</li> <li>・ 備蓄食糧の整理点検、発電機等の機材の整備試運転を定期的に行った。</li> </ul> <p>備蓄食料 : 3日分×全児童生徒分 3日分×教職員分(主食のみ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校内の事故や本校以外の不祥事について朝打ち合わせ、文書配布等を通して報告や通達をおこなった。</li> <li>・ アンケート調査や不祥事防止会議をおこない職員の意識付けを行った。</li> </ul> <p>不祥事防止チェックリスト : 3回 不祥事防止会議 : 5回 不祥事防止研修会 : 1回</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域と連携した防災計画の策定</li> <li>・ 特別避難所の具体的な体制(防災用品の保管場所検討と発注等)と運用マニュアルを整備する。</li> </ul> <p>(課題)事故不祥事防止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝の打ち合わせ等での迅速な報告と通達を行う。</li> <li>・ 不祥事防止会議で事例研究やグループディスカッションを実施する。</li> </ul>	<p>のため、地域の方にも実情を知っていただき、協力を得ると良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校生活の充実のためには家庭の基盤を整わないと、通学が保証されない場合がある。学校だけで対応できないことは、地域の様々な資源を活用してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報の管理等で不十分さがあった。</li> </ul> <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ PTA防災委員会を発足し保護者との協力のもと、校内の防災体制を強化する。</li> <li>・ 防災拠点として地域と連携した仕組みづくりを推進する。</li> <li>・ 事故等が起らないようにチェック体制を改善する。</li> </ul>
<p>教育目標・教育方針・中長期的な方針など</p> <p>目指す学校像：「児童生徒の人権を大切に授業が行われ、児童生徒の一人ひとりが元気で輝ける学校」</p>					